

学園通信

2023.11
Vol.14



学校法人 名古屋電気学園

愛知工業大学

愛知工業大学名電高等学校

愛知工業大学名電中学校

愛知工業大学情報電子専門学校



|| 巻頭特集 || P01

夏の甲子園 3年連続出場

|| 巻頭特集 || P03.04

卓球インカレで二度目のアベック優勝飾る！
日本高校ダンス部選手権スモールクラス
初優勝！

高校メカニカルアーツ部がWRO世界大会へ

|| 巻頭特集 || P05.06

実就職率ランキング98.6%で全国1位に
夏のオープンキャンパスを今年も開催！



※写真提供 卓球レポート



※写真提供 ニックタニュース



第16回 日本高校ダンス部選手権

夏の甲子園 3年連続出場

愛工大名電高校野球部が、第105回全国高等学校野球選手権記念愛知大会で優勝し、3年連続15回目となる夏の甲子園出場を果たしました。これは、同部が第87〜89回大会（2005〜2007年）にかけて成し遂げた「平成の3連覇」に続く、「令和の3連覇」の快挙です。どこにも負けない練習量と、科学的なトレーニング、そこから生まれた自信。守備からリズムをつくり、粘り強く戦い抜いたチームが、愛知の高校球史に新たなページを書き込みました。



中京大中京に勝利し甲子園出場を決めた愛工大名電ナイン



愛知大会決勝戦

愛知大会173チームの頂点に立つ

愛知大会決勝（7月29日・岡崎レッドダイヤモンドスタジアム）で勝利し、3年連続の甲子園出場を決めました。

優勝候補として他校に厳しくマークされながら迎えた初戦、大府との接戦を終盤の逆転劇により5―4で制しました。2戦目には名城大附属を3―0で下し、3戦目は愛知に10―0のコールド勝ち。さらに準々決勝では大会屈指の投手を擁する享栄を10―0のコールドで下しました。

準決勝では中部大春日丘に先制されたものの、すぐにリードを奪い返し、8―5で勝利。そして決勝戦では、全国最多優勝を誇る中京大中京を相手に1点をめぐり息詰まるような接戦の末、4―3で守り勝って最激戦区愛知の頂点に立ちました。

愛知大会の参加校は、全国最多の173チーム。その頂点に立つことの大変さはい言うまでもありません。2連覇から3連覇、より困難な目標に今年のチームは挑戦し、見事に優勝旗を持ち帰ってくれました。



【愛知大会決勝戦スコア】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
愛工大名電	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4
中京大中京	2	0	0	0	0	0	0	1	0	3

VOICE



倉野光生監督

大会二日目、第四試合。炎天下の猛暑が和らぎ、キラキラの太陽と異なるカクテル光線に照らされ甲子園球場に立つ名電ナインは誇らしかった。甲子園出場の前に立ちはだかった『夏の愛知、令和の3連覇』という大きな壁。みごとに乗り越え聖地に立った。道のりは、本当に険しかった。甲子園のスタンド、観客席は、平日の第四試合で空きも感じられたが、一塁側のMEIDENアルプスは見事に満席。愛知から、全国から駆け付けてくれた名電応援団と名電ファンで埋め尽くされていた。

試合は初回に先制して優勢に始めたが、徳商の好投手に阻まれ追加点を奪うことができなかった。ゲームセットのサイレンが響き1対2。聖地の舞台は無情に勝負の厳しさを名電ナインに突き出した。勝利を信じてプレーした選手たちは、まるで夢が覚めたような瞬間だった。しかし、ノーエラー、粘り、全力プレー。思う存分に夢の甲子園ですべてを出し切ることができた。勝負は表裏一体だ。勝利は、次なるチームに、後輩に最強MEIDENを託すんだ。三年生の先輩から後輩へのメッ



試合後、ナインをたたえる愛工大名電の応援団＝甲子園球場で（8月8日付の中日新聞県内版から）※この写真は中日新聞社の許諾を得て転載しています



甲子園初戦

仕行会・表敬訪問

一丸となって戦い抜いたナイン

昨夏の8強超えを目指した本校は、夏の甲子園一回戦（8月7日）で、古豪・徳島商（徳島）と対戦しました。両校エースによる互いに譲らない投げ合いの末、あと一歩及ばず1―2で惜敗しました。

一回表、早くも訪れた1死2塁のピンチをライト寺田純平（3年）の好捕で救い、その裏の2死一、三塁から加藤蒼惟（3年）の適時打で先制。吹奏楽部による得点時の応援曲「さくらさくら」が鳴り響きました。

三回に逆転を許したものの、以降は先発の笹尾日々喜（3年）が八回途中まで丁寧な打たせて取り、無失点に抑えました。しかし打線は最後まで2点目を奪えず、初戦で聖地を後にすることになりました。

今大会はコロナ禍の制限がなく、4年ぶりに声出し応援が復活。生徒、保護者や野球部、吹奏楽部、チアリーディング部らの応援団は、逆転を信じて声の限りの声援を送りました。試合後、金森洗喜主将（3年）が「目立った選手はいない分、一つになって戦えた」と振り返ったとおり、一丸となって戦い抜いたチームに、スタンドから温かな拍手が降り注ぎました。

【甲子園一回戦スコア】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
徳島商	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
愛工大名電	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1

セージだ。昨年のベスト8を上回るうと戦ったナインだが、皆様の期待に応えることができずに無念でした。しかし、愛知大会を通じてMEIDENは貴重な経験を積み、一回り大きく成長した。また何かをやってくれそうにパワーアップしたようだ。



金森洗喜主将 3年

愛知の夏を3連覇という目標をかけたて臨んだ大会でした。決勝で勝利して目標を達成できた瞬間は感無量でした。愛知大会、甲子園を通じて暑い中を大勢の方々に応援していただいて、自分たちの大きな力になりました。名電自慢のブラスバンドの演奏とサンタースの応援、そして友たちの声援と一体となってプレーすることができました。甲子園で勝利できなかったのは残念ですが、大観衆に包まれて野球ができたことは、本当に楽しかったし、素晴らしい経験になりました。応援ありがとうございました。

卓球インカレで二度目のアベック優勝飾る！



卓球インカレ「第92回全日本大学総合卓球選手権大会団体の部」(7月13〜16日・横浜武道館)で、本学男子卓球部と女子卓球部がそろって優勝しました。本学による男女アベック優勝は4年ぶり2回目となる快挙です。

男子は、2年ぶり9回目の優勝を飾りました。出場メンバーは、横谷晟(3年)篠塚大登(2年)谷垣佑真(2年)鈴木颯(1年)。ジュニア時代から同じ名電卓球部で切磋琢磨してきた仲間です。

決勝の相手は、昨年と同じ明治大。「昨年は準優勝に終わり大変悔しい思いをしたので、必ず優勝旗を取り返すぞという強い気持ちで」(森本耕平監督)大会に臨みました。

両校エース対決となった1番、篠塚が宇田幸矢選手とのフルゲームの戦いを制してチームに勢いを呼び込みました。2番は、鈴木が今大会好調な宮川昌大選手を果敢に攻め、ストレート勝ち。3番ダブルスは、篠塚/谷垣が宇田/松田歩真選手にゲームカウント1-2とリードされるも、同学年ならではの息の合ったプレーで逆転勝ちを収めました。

ライバルに全勝でリベンジを果たした選手たちは、閉会式後、中村光人主将(4年)を胴上げして力いっぱい喜びを表しました。

女子は、4年ぶり5回目となる優勝です。「最初から優勝を狙い、優勝するために選手たちは話し合い、考えて準備をしてきました」と、鬼頭明総監督。谷渡亜美(4年)岡田琴菜(3年)永野萌衣(2年)面田采巳(1年)の各選手が出場しました。

神戸松蔭女子学院大と対戦した決勝戦は、1番の永野が最終ゲーム5-10から粘り強さを発揮して逆転勝利。2番の岡田も力強いプレーで完勝しました。3番ダブルスを落とした後、4番ルーキーの面田がガッツあふれるプレーで優勝を決めました。「ベンチに入れなかった選手たちも自分たちの役割を果たし、全員が優勝に貢献してくれた」(鬼頭総監督)と、ONE TEAMとして戦い成し遂げた優勝でした。

苦しい試合がいくつもあった中、皆様の応援のおかげで乗り越えられたと監督・部員たちは感謝を述べ、「男子はパリオリンピック、世界選手権の日本代表を目指して練習に励んでいきます」(森本監督)「女子の次の目標は、まだ成し遂げることがないインカレ2連覇です。必ず達成できると信じ頑張っていきます」(鬼頭総監督)と、今後の活躍を力強く誓っています。



※写真提供 卓球レポート

日本高校ダンス部選手権スモールクラス初優勝!

高校ダンス部が、第16回日本高校ダンス部選手権夏の公式全国大会（8月16～17日・パシフィコ横浜）のスモールクラス（2～12人）で優勝し、文部科学大臣賞・（社）ストリートダンス協会賞を受賞しました。また、ビッグクラス（13～40人）でも東海地区勢としてトップの14位の成績を収めました。夏の公式大会での全国優勝は東海地区初の快挙です。

スモールクラスは台風の影響により、予定より6時間遅れて会場入り。途中の浜松駅で5時間の停車を余儀なくされました。一時的に扉が開きホームに出ることができたため、少しでも体が固まらないようにホームで体を動かすなどして運転再開を待ちました。ビッグクラスは名古屋駅で新幹線に乗ることすらできず、急遽バスで移動。通行止めの高速道路を避けながら出演前日の夜までに横浜へ到着することができました。当日は本校を含む東海・関西勢の12校が出演時間に間に合わず、大会事務局に出演順の変更や休憩時間の延長などの対応をしていただき、全体の予定を1時間遅らせて出場す



演技中のスモールクラス（産経新聞社提供）



東海地区勢トップの14位の成績を取ったビッグクラス

ることができました。

「踊る人も、見る人も楽しめるダンスを目指して」をスローガンとする本校ダンス部は、大会シーズン以外は週2日の活動であるため、普段から「短い時間で集中した練習」をしています。本番の舞台でも、その成果を生かして力強いダンスを披露しました。顧問の清水隆博教諭は「今回の列車遅延で会場到着後すぐの演技になりましたが、気持ちを切り替えて普段のように集中力を最大限に高めた状態でパフォーマンスできたことが功を奏したのだと思います」と話しています。

高校メカニカルアーツ部がWRO世界大会へ

8月27日に東京都港区で開催された「WRO 2023 Japan 決勝大会」で、高校メカニカルアーツ部の「Meiden 1年」チームが優勝しました。11月7～9日にバナー共和国で開催される世界大会に日本代表として出場します。

子供たちを対象にしたロボットコンテストであるWRO (World Robot Olympiad) は、市販のキットを使ってロボットを製作し、プログラミングによる自動制御技術を競います。2004年に第1回が開催され、世界的な広まりをみせています。毎年、世界で起きている問題に合わせたテーマが設定され、それに沿った競技が行われるのも特長です。

「Meiden 1年」は、堀田壮真（専門学科1年）、猪俣健悟（同）、楠本大翔（普通科1年）の3人のチームで、自律型口



右から猪俣健悟、楠本大翔、堀田壮真、顧問の大澤和貴教諭

ロボットの走行競技であるレギュラーカテゴリーのエキスパート競技シニア部門に出場しました。同部門はプレゼンシートでの発表も加わります。競技は2走を行い、毎年違う内容となる1走目は、指定された色のコンテナブロックを船の上に置き、指定の場所まで移動させるものでした。2走目は、その場で与えられた課題を2時間で考え、取り組みました。

両走行で満点を取り、1走目の走行タイムも東海地区優勝時よりかなり縮めて優勝を果たした3人は、「4月から地道な調整を重ね、成果を出すことができて本当にうれしかった。全国大会では一度は負けが頭をよぎりましたが、最後の最後まで諦めずに調整しきったおかげで勝利をつかめました。『諦めない』を胸に、世界大会でも1位を取れるように頑張ります」と意気込みます。

部顧問の大澤和貴教諭は「前向きでやる気に満ちあふれた生徒たちです。ただがむしやりに回数を重ねて練習するのではなく、一つ一つの動きを細かく修正し、緻密にロボットを作り上げていました。チームの中で1人が飛び抜けて優れているわけではなく、しっかりと3人で相談してロボットを作り上げていくチームワークも素晴らしいものがありました」と頑張りをたたえています。

実就職率ランキング 98.6%で全国1位に*

大学通信オンラインにおいて2023年実就職率ランキングが公開され、本学が卒業生数1000人以上の大学の实就職率(98.6%)で全国1位*となりました。

実就職率とは、卒業生から大学院進学者を引いた学生に対する就職者の割合を示したものです。実態に即した就職状況を把握できることから、各大学の就職力を推し量る指標として注目されています。

本学はこのランキングで例年上位にランキングされており、前々年と前年は全国2位でした。今年発表されたランキングでは本学以下、2位に福井大学(98.4%)、3位に大阪工業大学(98.1%)がランキングする結果となりました。

このような結果は学生自身の努力はもちろん、学科教員とキャリアセンターが両輪となって学生の支援を継続的に行ってきたからでしょう。今後もこの結果を維持・向上させていくことが求められます。

実就職率
2023年3月卒業生
大学院修了生を含む

98.6%

情報科学部
97.0%

経営学部
98.6%

工学部
99.0%

※実就職率(%) = 就職者数 ÷ [卒業生数 - 大学院進学者数] × 100

※7月21日公開 大学通信ONLINE 2023年実就職率ランキング(卒業生数1,000人以上)



愛名会企業研究会

全国1位は就職に関する総合力の成果

Q 実就職率全国1位になったことについて、感想をお聞かせください。

A 全国1位になったことは素直に「うれしい」の一言です。学園創立111周年の節目の年で達成できたのは、縁を感じますね。この結果に慢心することなく、今後も維持・向上していくことが大切だと思います。

Q このよつな結果を残せたのは、何が必要だと思われますか？

A まずOB・OGの活躍による企業からの信頼があることが揺るがない事実だと思います。その上で学生の努力、各学科やキャリアセンターの支援、愛名会の存在など、さまざまな要因が重なり、結果につながったと思っています。今年だけでなく、過去からの積み重ねによって成し得た成果です。

Q 本学のキャリア支援の強みや差別化のポイントを教えてください。

A 企業研究会や支援講座などの「全体支援」と、学生一人ひとりの主体的な挑戦を促す「個別支援」の双方から、総合的なキャリア支援を行っていることです。学科内では研究室の教員や就職担当教員など、相談できる窓口も多く、多様化する学生のニーズに対応した支援ができていますと自負しています。

Q 今後、強化したいことや目標を教えてください。

A いちばんの目標は学生の第一希望群への就職を強化すること。キャリア意識形成の強化も重要です。学生が主体的に目標を立てて行動すれば、本学の実学教育がさらに活かされ、結果的に第一希望群への就職が実現すると考えています。大学院生向けの支援講座もさらに充実させたいし、企業との情報交換もより密にしていきたい。まだまだやるべきことはたくさんあります。



キャリアセンター長
内田 敬久
(工学部機械学科 教授)

愛知工業大学2023年度の就職実績

◀ 詳細な情報はこちら <https://www.ait.ac.jp/career/career-status/>

【大学院・工学研究科】

マツダ、SUBARU、デンソー、トヨタ紡織、アイシン、スズキ、ヤマハ発動機、ジェイテクト、富士通、三菱電機、アドヴィックス、荏原製作所、シャープ、小松製作所、愛三工業、東海光学、日本特殊陶業、TDK、富士電機 他

【大学院・経営情報科学研究科】

スクウェア・エニックス、DeNA、ZOZO、ソフトバンク、萩原電気ホールディングス、トヨタシステムズ、シャチハタ、パナソニックオートモーティブシステムズ、アイサンテクノロジ、小林クリエイト 他

【工学部・電気学科】

アイシン、豊田合成、スズキ、トイエネック、シーテック、クラレ、キオクシア、シャープ、富士ソフト、アイホン、バッファロー、敷島製パン、日東工業、萩原電気ホールディングス、デンソーテクノ、デンソーウェーブ、マスプロ電気 他

【工学部・応用化学科】

シャチハタ、アドヴィックス、東邦ガス、東亜合成、メニコン、敷島製パン、中北薬品、住友電装、デンソーエレクトロニクス、マルセルクレハ、キオクシア、共和レザー、HOWA、セルソース、富士特殊紙業 他

【工学部・機械学科】

豊田合成、スズキ、豊田鉄工、シャチハタ、Mizkan、朝日インテック、アドヴィックス、デンソーテン、デンソーテクノ、パイロットインキ、リコーエレメックス、HOWA、CKD、小島プレス工業、豊生ブレイキ工業、フタバ産業 他

【工学部・土木工学科】

大成建設、大林組、五洋建設、大豊建設、西松建設、安藤・間、東洋建設、名工建設、銭高組、鴻池組、名古屋鉄道、近畿日本鉄道、矢作建設工業、徳倉建設、TSUCHIYA、竹中土木、ジェイアール東海建設、愛知県庁 他

【工学部・建築学科】

清水建設、積水ハウス、大和ハウス工業、住友林業、大成建設、五洋建設、東急建設、西松建設、青島設計、日建設計、矢作建設工業、三井ホーム、セキスイハイム東海、AVANTIA、パナホーム、サウラ住宅 他

【経営学部・経営学科】

メニコン、ファーストリテイリング、フジパングループ、パロホールディングス、名古屋製酪、日本生命保険相互、萩原電気ホールディングス、富士ソフト、中部テレコミュニケーション、ヒマラヤ 他

【情報科学部・情報科学科】

NDS、セガ、デンソーテクノ、シイエム・シイ、エキサイト、旭情報サービス、システムリサーチ、エヌユーエス、デンソーパワートレインテクノロジーズ、オーカム、フジキカイ 他



愛知工業大学就職・進路状況
2023年度就職実績
2023年度就職実績
2023年度就職実績

夏のオープンキャンパスを今年も開催!

夏のオープンキャンパスが7月15、16両日、八草と自由ヶ丘の両キャンパスで開催され、合わせて3767人の来場者でにぎわいました。各専攻の学生たちによる90ものデモンストレーションが繰り広げられ、訪れた高校生や保護者が熱心に研究成果を見学しました。入試相談や在学生による個別相談のコーナーも終日人気を集めました。



◎社会基盤学科*

(現 土木工学科)

◆**構造系**
八草キャンパス 耐震実験センター
国内有数の耐震実験が行える巨大施設のスケールを実感できる展示です。見たこともないほど大きなランチで、こぶし大もあるランチを締め上げる体験では、全身が場内に響いていました。

受付案内

猛暑の中にも関わらず、朝早くから多くの来場者が列を作っていました。開場と同時に愛工大オリジナルトートバックを受け取り、いよいよキャンパスの見学スタートです!



八草キャンパス 入試相談コーナー&説明会

相談ブースでは最新の入試制度や状況など、愛工大の生の情報が聞ける貴重な機会。高校生や親御さんたちは、真剣な表情で職員の話に耳を傾けていました。
オープンキャンパスの周り方を紹介する「オープンキャンパス説明会」、大学の概要や各学部学科の特色を知ることができる「大学概要説明」、保護者の方向けの「保護者説明会」、各入試制度のポイントが分かる「入試説明 推薦入試対策講座」を開催。参加できなかった方のために動画も配信しています。



自由ヶ丘キャンパス キャリアセンター説明会

愛工大の高い就職率とその理由、また背景にあるサポート体制について、クイズを交えながら分かりやすく解説。参加した皆さんは、大人も子供も楽しみながらスタッフの説明に耳を傾けていました。



◎機械学科

◆**新規開発サスペンション付き6輪電動車いす**
八草キャンパス 6号館
4輪よりも登坂性能と安定性、小回りが向上する6輪車いすを紹介。凹凸路で浮いてしまう課題を解決した新規開発のサスペンション機構の緻密な動きと車体の挙動に目を輝かせる高校生もいました。



◎応用化学科

◆**セラミックスのすごさを体験しよう**
八草キャンパス 3号館本館
身近なところで活躍しているセラミックスの使用例やその特性を紹介。金属が変形してしまうほどの衝撃を加えても傷つかない「ジルコニアセラミックス」の強度を体験し、驚きを隠せない様子でした。



◎電気学科

◆**自律移動体や遠隔操縦支援の仕組みを知ろう**
八草キャンパス 新2号館
屋内外で自律移動をするロボットたちが展示され、移動体を遠隔操縦する支援システムについての仕組みの説明も行なっていました。操縦体験では、みなさんコントローラーを手に、楽しく四苦八苦していました!



◎情報科学科

◆**オーバレイネットワークを用いたビデオ会議システム**
八草キャンパス 1号館
学生たちが開発中の新しい通信技術(通信中に接続先が変わっても途切れないビデオ会議システム)を紹介。リモート生活で馴染みのある分野だけに、途切れぬという点に興味を持ち、熱心に耳を傾けていました。



◎経営学科

◆**人々の行動を変えることはできるのでしょうか? 行動経済学にふれる**
自由ヶ丘キャンパス 本館
SDGsの取り組みが大事だと認識はしていたとしても、日常において実際に望ましい行動に移してもらうにはどうすればいいのかが、行動経済学を活用したゲームなどで来場者と一緒に考えました。



◎建築学科

◆**デザイン・ワークショップ**
八草キャンパス 新2号館
おりがみやペーパークラフトを使って、建築やインテリアのデザインを体験しました。木材繊維を固めた「MDF板」という補強部材でできたパーツを使って楽しくコミュニケーションを作っていました。





令和5年度 愛名会総会

学園の後援組織・名古屋電気学園愛名会の令和5年度総会が6月16日、名古屋東急ホテルで開かれました。

挨拶に立った佐々木真一会長は、「コロナ禍を超えてのSDGs時代の事業展開などに触れながら、学生生徒と会員企業のよりよいマッチング事業を進めて

いきたい」と述べました。続いて、名誉会長の後藤泰之学園理事長が日ごろの支援への感謝を込めて「やる気と元気、チャレンジ精神のある学生を育てていく」と挨拶しました。

総会では、清水建設株式会長の坂尾彰信氏が新たに副会長に決まったことや、4年度の事業・決算、5年度の事業計画・予算などが報告されました。総会后、本学の地域連携・

SDGs推進本部ゼロカーボン推進室長を務める羽田裕経 営学科教授が「ゼロカーボン地域社会の実現」本学が果たす役割と最適モデルの追求」と題して、続いて研究支援本部エコ電力研究センター

長の雪田和人電気学科教授が「再生可能エネルギーの研究がもたらす未来への可能性」エコ電力研究センターの取り組み」と題して、それぞれ講演しました。



講演する羽田裕経教授



講演する雪田和人教授

後藤すゞ子先生 奨学金を交付

学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が、9月11日に工学部の学生に交付されました。

奨学金は、元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるよう支援するものです。八草キャンパス本部棟で交付があり、後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して「学業、学生生活にしっかり取り組みんでください」と学生を激励しました。



後藤杯卓球

第52回後藤杯卓球選手権大会(名古屋オープン)は9月15～17日の3日間、ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)で開かれ、男女シングルス336選手、男女ダブルス251組、男女ジュニア294選手が参加して熱戦を繰り広げました。

各種目で優勝、準優勝した学園設置校の選手は次の通りです。

男子シングルス●優勝: 篠塚大登(愛知工業大学2年)、準優勝: 谷垣佑真(同)

男子ダブルス●優勝: 横谷晟(同3年)/谷垣佑真、準優勝: 篠塚大登/鈴木颯(同1年)

女子ダブルス●準優勝: 岡田琴菜(同3年。愛知みずほ大瑞穂高の今枝愛美選手とペア)

男子ジュニア●優勝: 菅沼翔太(愛工大名電高2年)



名古屋電気学園だより

学校法人名古屋電気学園 令和4年度 教育研究支援募金 寄付者芳名録

教育研究支援募金へご協力いただき心より御礼申し上げます。

令和4年度にご寄付をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

なお、お名前の掲載はご同意いただいた方のみを掲載させていただいております。

種類	金額	芳名掲載	その他	述べ件数
教育研究支援	21,740,000円	5件	12件	17件
法人	5,150,000円	2件	1件	3件
個人	16,590,000円	3件	11件	14件
スポーツ振興	6,348,000円	273件	356件	629件
法人	820,000円	7件	2件	9件
個人	5,528,000円	266件	354件	620件
総合計	28,088,000円	278件	368件	646件

●教育研究支援 敬称略 五十音順

法人

株式会社エイアイテック
長谷川体育施設株式会社

個人・団体

石垣 尚男

名古屋電気学園愛名会

瑞若会(愛知工業大学同窓会)

●スポーツ振興 敬称略 五十音順

法人

大嶋不動産事務所合同会社
株式会社五十鈴商会

TSUCHIYA株式会社
株式会社ソレイジャジェニー

株式会社MAC SP
シー・ケイ・ケー株式会社

第一設備工業株式会社

個人

相場 幸雄	伊藤 忍	太田 博隆	鎌倉 弘明	小塚 晃透	嶋 好美	辰巳 良美	永井 哲博	架谷 昌信	廣浦 幸恵	水野 旭	山梨 敬子
青木 陽一	伊藤 崇	太田 垣 明	鎌田 敏志	ゴデアスカマリ	島田 寛文	立松 健二	永井 広明	長谷川 和徳	福井 由美子	水野 吉浩	山本 啓二
青木 陽子	伊藤 昌典	大津 正己	神谷 光春	後藤 幸樹	庄田 一仁	田中 美恵	中神 篤弘	羽田 裕	福澤 和久	南 晃一	結城 達夫
秋江 順子	伊藤 雅	大野 剛嗣	河合 康典	後藤 尚之	須賀 人志	谷川 勝己	中神 由香	肌附 邦央	福嶋 則人	宮川 愛生	吉田 篤史
朝岡 昌樹	伊藤 康博	大橋 俊二	川口 昌裕	後藤 泰之	杉浦 正則	谷口 智輝	長澤 睦美	服部 祐典	服部 祐典	宮島 宝七子	吉田 成美
芦澤 宜博	福垣 慎二	緒方 美鈴	川口 陽子	後藤 芳樹	杉野 丞	谷口 正樹	中島 昭彦	服部 洋兒	藤枝 直輝	宮本 良一	吉田 高之
阿部 孔一	井上 博樹	岡林 文児	川崎 敏彦	小林 郁夫	杉本 吉弘	谷本 隆一	中島 隆人	服部 洋兒	堀江 功一	宗本 理	四谷 伸次
荒川 洋吏	岩田 崇志	小川 明広	河島 勝利	小林 謙一	鈴木 晋	種村 浩一	中島 剛	濱田 摩耶	前田 正明	村上 薫	米坂 篤人
安藤 明久	岩間 恵里奈	小川 博通	川島 孝博	近藤 幸子	鈴木 達宜	田原 剛	中村 美香	早川 幹弘	前田 正也	村瀬 洋	和田 真理
飯田 晋司	上園 浩	奥田 好弘	川田 猛	近藤 努	鈴木 伸幸	田村 廣明	中村 康博	早川 義一	前田 賢	村田 三和子	渡邊 一矢
家田 岳史	鶴岡 圭子	奥野 佳宏	川田 正幸	近藤 信彦	鈴木 雅貴	田屋 潤	成重 徳仁	林 明宏	牧 宏生	元谷 卓	渡邊 徹
石井 敦	白井 利典	小栗 真弥	川村 国隆	斉藤 洋一	隅山 孝夫	中條 直也	成瀬 公紀	林 敬二郎	松井 俊浩	松原 武司	渡部 尚志
石井 成美	内田 英則	小野木 克明	川本 哲	佐久間 順敬	関谷 奈央樹	塚田 敏彦	西 裕之	林 新二	松井 正人	速水 隆一郎	森島 映子
石川 真吾	内田 敬久	景山 則房	岸上 薫	佐久間 洋子	芹沢 昌之	塚本 康之	西尾 純子	速水 隆一郎	松河 剛司	西川 銳二	森島 茂樹
石田 憲司	内山 みどり	葛西 祐子	城所 博	笹尾 愛	高本 秀和	土松 千晴	原田 康行	原田 康行	松原 武司	原田 圭一	安井 久幸
石田 秀樹	内海 那保子	糟谷 美香	木村 政和	佐々木 大貴	高柳 収	寺澤 勇	原田 圭一	原田 圭一	松本 智治	原田 圭一	柳本 真佐人
石原 忍	宇野 希史子	片山 友広	葛谷 新一郎	佐々木 幸二	滝本 盛利	寺田 直純	終 紫乃	終 紫乃	松本 望琴	尾藤 勝幸	山口 秀作
伊豆原 利恵	馬詰 恵伍	加藤 香織	功刀 峻	実藤 龍一	滝本 裕伸	堂原 淳也	西村 由美	尾藤 勝幸	丸山 孝	尾藤 祥江	山崎 純一郎
板倉 進	梅田 美也古	加藤 聡	久野 温士	佐野 泰之	田口 智士	戸田 仁司	野口 明生	尾藤 祥江	丸山 恭司	平井 光親	山下 英明
市古 美奈	大泉 智洋	加藤 里美	久保田 哲也	澤木 彦彦	武井 則近	戸松 安里沙	野口 晃	平井 光親	三浦 大蔵	野崎 敏広	山下 里恵
一野 祐亮	大久保 仁	加藤 拓也	栗濱 繁子	澤田 秀司	澤田 秀司	鳥井 昭宏	野澤 英希	平野 孝三	水嶋 大輔	野澤 英希	山田 英介
一柳 彰	大笹 暢	加藤 昌則	栗山 里夏	塩田 秀樹	武田 美恵	内藤 雄順	野澤 英希	平野 孝三	水谷 建司	野澤 英希	山田 浩貴
伊東 紗織	大澤 善美	金谷 有能	小嵐 みどり	篠田 有希子	橋 克晴	中井 孝幸	野波 朗	平野 宗昭	水谷 亮介	水谷 亮介	山中 史久

教育研究支援募金のお願い

学校法人名古屋電気学園は、今後も魅力的な教育活動を行うため、よりよい教育研究環境の整備や学生・生徒への奨学支援を行ってまいります。今後もご支援を賜りますようお願い申し上げます。

個人の場合



インターネットからのお振込みをご利用いただけます。

QRコードからお手続きをお願い致します。

読み取りができない場合はこちらから ▶ <https://www.nagoyadenki.jp/support/>

法人の場合

下記の募金係までご連絡ください。

減免税措置

税制上の優遇措置が受けられます。

クレジット支払



コンビニ支払



Pay-easy



※手続や減免税措置等の詳細はホームページをご確認ください。

※寄付の決済代行を委託している『F-REGI寄付金支払い』でのお手続きとなります。

学校法人名古屋電気学園 事務局財務部 募金係

〒470-0392 愛知県豊田市八草町八千草1247

TEL:0565-48-8711(代表)内線:3110 募金専用E-mail:bokin@aitech.ac.jp



【令和4年度決算の概要】

学校法人名古屋電気学園の令和4年度決算の概要は、以下の通りです。

資金収支計算書（会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入と支出の内容と当該年度に係る支払資金の収入と支出のてん末を明らかにしたもの）

「収入・支出の部合計」は286億2千万円となり、「施設関係支出」には、大学・新4号館建設に伴う建設仮勘定の計上や、高校・瑞若体育センターの改修等が含まれています。

事業活動収支計算書（経常的な収支と臨時的な収支を区分し、経常的な収支は、更に教育活動収支と教育活動外収支に区分することによって、それぞれの収支状況を明らかにしたもの）

「教育活動収支差額」と「教育活動外収支差額」を合算した「経常収支差額」は8億8千万円となり、これと「特別収支差額」の△2千万円を合計した「基本金組入前当年度収支差額」は8億6千万円となりました。

「基本金組入額」15億8千万円を組入れた後の「当年度収支差額」は△7億2千万円となり、これに「前年度繰越収支差額」を合算した「翌年度繰越収支差額」は△119億2千万円となりました。

貸借対照表（年度末における資産、負債、純資産の財政状態を表すもの）

「資産の部合計」は650億3千万円、「負債の部合計」は、58億6千万円、基本金に繰越収支差額を合算した「純資産の部合計」は591億7千万円となりました。

詳しくは、名古屋電気学園ホームページの「事業報告・財務状況【名古屋電気学園-学園データ】」をご覧ください。

資金収支計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

収入の部		決算
科目		
学生生徒等納付金収入		9,873,461
手数料収入		345,106
寄付金収入		85,274
補助金収入		1,879,278
資産売却収入		109,000
付随事業・収益事業収入		167,939
受取利息・配当金収入		35,345
雑収入		532,255
借入金等収入		0
前受金収入		1,850,265
その他の収入		390,508
資金収入調整勘定	△	2,294,439
前年度繰越支払資金		15,648,838
収入の部合計		28,622,830
支出の部		決算
科目		
人件費支出		6,478,368
教育研究経費支出		3,064,233
管理経費支出		655,791
借入金等利息支出		2,059
借入金等返済支出		126,660
施設関係支出		1,694,831
設備関係支出		452,706
資産運用支出		1,900,000
その他の支出		663,132
資金支出調整勘定	△	749,001
翌年度繰越支払資金		14,334,051
支出の部合計		28,622,830

事業活動収支計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：千円)

科目		決算
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	9,873,461
	手数料	345,106
	寄付金	85,555
	経常費等補助金	1,800,043
	付随事業収入	167,939
	雑収入	532,154
	教育活動収入計	12,804,258
事業活動支出の部	人件費	6,391,518
	教育研究経費	4,777,959
	管理経費	788,694
	徴収不能等	0
教育活動支出計	11,958,171	
教育活動収支差額	846,087	
科目		決算
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	35,345
	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外収入計	35,345
教育活動外支出の部	借入金等利息	2,059
	その他の教育活動外支出	0
	教育活動外支出計	2,059
教育活動外収支差額	33,286	
経常収支差額	879,373	
科目		決算
特別収入の部	資産売却差額	1,566
	その他の特別収入	119,891
	特別収入計	121,457
特別支出の部	資産処分差額	142,780
	その他の特別支出	1,463
	特別支出計	144,243
特別収支差額	△ 22,786	
基本金組入前当年度収支差額	856,587	
基本金組入額合計	△ 1,575,477	
当年度収支差額	△ 718,890	
前年度繰越収支差額	△ 11,200,669	
翌年度繰越収支差額	△ 11,919,559	

(参考)

事業活動収入計	12,961,061
事業活動支出計	12,104,474

貸借対照表

(令和5年3月31日)

(単位：千円)

資産の部		決算
科目		
固定資産		50,140,384
流動資産		14,893,641
資産の部合計		65,034,025
負債の部		決算
科目		
固定負債		2,787,954
流動負債		3,076,801
負債の部合計		5,864,754
純資産の部		決算
科目		
基本金		71,088,829
繰越収支差額	△	11,919,559
純資産の部合計		59,169,270
負債及び純資産の部合計		65,034,025

N 10氏に名誉教授の称号を授与

学園は7月20日、愛知工業大学名誉教授の称号を釘宮慎一氏はじめ10氏に贈り、本学に対する顕著な功績を称えました。名誉教授となられた方々は累計で115人となりました。

称号授与式は八草キャンパス本部棟で行われました。後藤泰之理事長が10氏に辞令書を手渡した後、長年の尽力をねぎらい、「これからも違う形で大学を見ていただき、お力添えをいただければ」と語りかけました。これに応え、受称者を代表して近藤高司氏が「名誉ある称号に恥じることはないよう、より一層研さんを積んでいきたいと思えます」とお礼の挨拶をしました。

名誉教授となられたのは次の皆さんです。



後藤泰之理事長を囲んで、名誉教授となられた皆さん

- 釘宮慎一氏 (元工学部応用化学科教授)
- 高木誠氏 (元工学部機械学科教授)
- 谷本隆一氏 (元工学部機械学科教授)
- 杉野丞氏 (元工学部建築学科教授)
- 近藤高司氏 (元経営学部経営学科教授)

- 藤井勝紀氏 (元経営学部経営学科教授)
- 隅山孝夫氏 (元基礎教育センター教授)
- 柳井裕道氏 (元基礎教育センター教授)
- 阿部幸一氏 (元基礎教育センター教授)
- チャールズ・ケリー氏 (元基礎教育センター教授)

N カーボンニュートラル実現に向けてイオンモール長久手でセミナー

本学ゼロカーボン推進室は9月12日、長久手市のイオンモール長久手イオンホールで「地域の未来を考えるカーボンニュートラル社会の実現に向けて」と題したセミナーを開催し、学内外から60人が参加しました。

基調講演で、経済産業省中部経済産業局の寺村英信局長が「2050年カーボンニュートラル実現に向けて」と題し、国内外の最新動向に加え、地域でのカーボンニュートラルに向けた動きなどを紹介しました。続くセミナー講演で、本学から近藤元博総合技術研究所教授が「カーボンニュートラルの現状と今後の展望」、エコ電力研究センター長の雪田和人工学部教授が「持続可能な未来を目指すための再生可能エネルギーに関する技術紹介」、ゼロカーボン推進室長の羽田裕経営学部教授が「CN(カーボンニュートラル)の実現に向けたゼロカー

ボン推進室の役割と取り組み」と題し、それぞれの立場から話をしました。

地域貢献を通じてカーボンニュートラルの実現に寄与するための方策や、個人が環境に優しい行動を選択するための問いかけなど、地域とともに考え実践すべき課題について活発に質疑応答が行われ、受講した住民らは脱炭素に向けて認識を新たにしました。



愛知工業大学ニュース



学内イベントや研究室の様子など愛知工業大学の様々な情報を発信しています。



愛知工業大学の公式チャンネルもご覧ください。

University NEWS

本年度もJUEMUN (日本大学英語模擬 国連大会)に参加

学生が各国大使の役割を演じ、実際の国連のように英語で国際問題解決のための議論をする「JUEMUN (Japan University English Model United Nations 2023)」(7月7～9日・神戸市立神戸市外国語大学)に、本学の学生たちが本年度も参加しました。

参加したのは、12大学からの合わせて180人を超える学生たちで、本学からは英語ワークショップA(担当・藤村敬次准教授)の授業を受講する1年生～大学院生までの9人が参加しました。

本学の学生たちは、それぞれガボン、ルーマニア、ベトナムの大使になりきり、「すべての子どもと青少年の教育の質向上」「すべての子どもと青少年の医療アクセス確保」「すべての子どもと青少年の保護強化」の3つの会議(議題)で、自国の利害を加味しながら問題解決を提唱する決議をまとめました。また今回が参加2回目となる大学院工学研究科1年の水津暁生さんが、会議の一部でファシリテーターとして活躍しました。

3日間の期間中、全て英語でコミュニケーションをとりながら活動しました。初日は混乱していた学生が、2日目、3日目と日を過ごすことに積極的にになり、他大学の学生と交流しながら決議案に取り組み姿が見

られました。参加2回目の応用化学科2年、柳川俊介さんは、「英語の環境の中で交流を深めた体験は、理系学生にとっての就活でも、より有利になると思います」と参加の意義を話していました。



2024年度 入試説明会

2024年度入試説明会が5～6月にかけて、愛知など8県内の会場で開かれました。本学会場の説明会は6月22日に八草キャンパス愛和会館で開かれ、高校の進路指導や担任の教師らが出席しました。

初めに後藤泰之学長が挨拶し、「ものづくりから人づくり」という形で失敗を乗り越えてチャレンジする人材の育成について話しました。この後、入試センター長の中村栄治教授が、各専攻の特色をはじめとする本学の概要を紹介し、続いて入試広報課の馬詰恵伍課長補佐が、新設の前期日程Aw方式(最高得点重視型)など2024年度入試について説明しました。説明会は5月31日～6月30



本学会場(八草キャンパス愛和会館)での入試説明会

一般選抜入試日程

入試制度	出願期間※	試験日	合格発表日	入学手続締切日
前期日程A方式	1月5日(金)～1月16日(火)	1月27日(土)	2月8日(木)	入学金2月28日(水) 授業料等・入学手続書類 3月11日(月)
前期日程Aw方式(最高得点重視型)		1月28日(日)		
前期日程M方式(マークセンス式)	1月29日(月)	2月16日(金)		
共通テスト1期C方式(3教科利用)	本学が課す試験はありません			
共通テストプラスA方式	1月5日(金)～1月16日(火)	独自試験はありません	2月16日(金)	入学金・授業料等・入学手続書類 3月18日(月)
共通テストプラスM方式		3月4日(月)		
後期日程M方式(マークセンス式)	2月15日(木)～2月26日(月)	本学が課す試験はありません	3月14日(木)	
共通テスト2期C方式(2教科利用)		本学が課す試験はありません		
共通テスト3期C方式(3教科利用)	3月1日(金)～3月6日(水)	本学が課す試験はありません	3月20日(水)	入学金・授業料等・入学手続書類 3月25日(月)

※一般選抜では「ネット出願」を利用できますが、出願書類は出願期間内に入試広報課まで郵送する必要があります。出願確認票・封筒は、ネット出願専用サイトから印刷してください。郵便事情を考慮して、出願手続き(登録)および入学検定料の支払いをおこなってください。

日に向け、本学会場をはじめ岐阜、山、福井、四日市、岡山、津、浜松、豊橋の計12会場で開催されました。



秋季卒業式・入学式

令和5年度秋季卒業証書・学位記授与式は9月21日、八草キャンパスA1Tプラザで行われました。卒業生は大学院と学部合わせて27人。卒業証書・学位記授与に続き、後藤泰之学長が式辞で本学の建学の精神と教育のモットーにふれ「理念に基づく積極的な生き方を選択されるよう願っています」と呼び掛けました。これにこたえ、経営学部スポーツマネジメント専攻卒業の田中佑汰さんが「専門知識と恵まれた仲間たちとともに培った人間性、創造性を携え、それぞれの分野で努力し活躍したい」と謝辞を述べました。この日は秋季入学式も行われ、後藤学長の式辞にこたえて新入生の山下素弘さんが「本学の学生たることを誇りとし、学生としての本分を全うする」と宣誓しました。



謝辞を述べる田中佑汰さん

工科展(大学祭)

第63回愛工大祭(10月7、8日)で、恒例の工科展が八草キャンパスA1Tプラザで開かれました。出展団体の発表を審査した結果、操舵独立機構を有する4輪駆動草刈りロボットの移動制御方法を研究した知能集積システム研究室が最優秀賞を受賞し、学長杯を手にしました。このほか、優秀賞はシステム工学研究会とシスコン、瑞若会(同窓会)賞は松井・武田合同研究室に贈られました。表彰式で、松河剛司教学副センター長が「今回の研究・発表を今後活かして欲しい」と学生たちを激励しました。

7日には、秋のオープンキャンパスも開かれ、来場者が高校生と保護者ら合わせて841人とにぎわいました。



2023年度第63回工科展表彰式の様子

「水口ロボットコンベンション in JAMSTEC 2023」フリー部門で優勝

8月26〜27日、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)横須賀本部で開催された国内最高レベルの水口ロボット競技会「水口ロボットコンベンション in JAMSTEC 2023」のフリー部門で、本学の「TeamBlue」が優勝を飾りました。

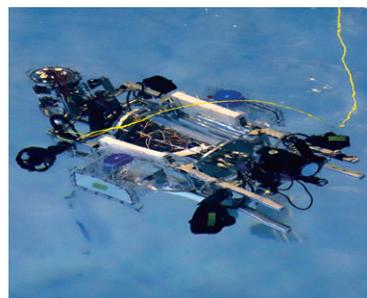
同コンベンションには、機械学科と電気学科の学部生・院生たちによる学生チャレンジプロジェクト「B・U・V(生体模倣水中ロボット)プロジェクト」(指導教員・内田敬久機械学科教授)が参加を続けており、優勝などの成績を取めた2020年大会以来、4年連続での成果となりました。

技術内容やオリジナリティを競うフリー部門で優勝したTeamBlueは、知的計測制御研究室(古橋秀夫電気学科教授)に所属する大学院博士前期課程1年の辻本竜也さん、学部4年の大木貴生さん、恒川昂汰さんの3人のチーム。AIT-VTVと名付けたROV(人がリアルタイムで操縦を行う水口ロボット)で出場しました。カメラの向きを制御するパンチルト機構

を、操縦者が装着するヘッドマウントディスプレイの動きと連動させ、直観的に操縦できるようにしました。また、ベクタード・スラスト機構により運動性を高めました。設計コンセプト、ロバスト性(外部の影響を受けにくい性質)、運動性能、プレゼンのすべてで素晴らしい成績を収めました。



本学チーム



AIT-VTV

プロジェクト共同研究 シンポジウム

第16回愛知工業大学プロジェクト共同研究シンポジウムが6月29、30日、八草キャンパス総合技術研究所視聴覚室で開催されました。産学連携研究推進事業の一環として企業と共同で研究に取り組むプロジェクト共同研究は、本学独自のマッチングファンドで、公募のうえ採択した研究を総合技術研究所が支援します。企業から提供された研究経費と同額、または全額を本学が助成し、毎年のシンポジウムで成果を報告しています。



報告される共同研究の成果

開始にあたり、総合技術研究所の鈴置保雄所長が「成果を共有し今後の発展につなげたい」と挨拶しました。この後、2日間にわたり次の18件の研究成果が報告されました。

◆清家善之電気学科教授

「半導体デバイス洗浄における機械学習を用いた静電気障害の予知技術の確立」
「半導体のChemical Mechanical Planarization (CMP)プロセスにおける新たな超音波技術の開発」

◆雪田和人電気学科教授

「直流スイッチの開発」

◆竹内和歌奈電気学科准教授

「アモルファスシリコンカーバイド光電極開発」

◆内藤克浩情報科学科教授

「RFIDと画像認識技術を融合した次世代データ解析システムの研究開発」
「生産設備のセキュアな高度化技術の研究」

◆菱田隆彰情報科学科教授

「SDGsを達成する働き方を支援するデータ分析とサイバースに関する研究」

◆塚田敏彦情報科学科教授

「物流・製鋼分野における画像センシング計測課題の見極め」

◆瀬古繁喜建築学科教授

「合成床版のコンクリートの充填・空際および滲水の検知装置の実用化に関する研究」

◆巽信彦建築学科講師

「特殊発泡材を用いた超軽量コンクリートブロック塀の開発」

◆西島義明機械学科教授

「カーボンニュートラルを見据えたエンジンの熱効率改善」
「ガソリンエンジン部品の樹脂化による熱効率改善に関する研究」

◆武田亘平機械学科准教授

「アルミニウム合金の超音波照射による残留応力低減とその疲労寿命向上」

◆北川一敬機械学科教授

「探査用高性能小型無人グライダーの研究開発」

◆横田崇土木工学科教授

「地震動到着時の緊急対応と発災後の応急対応を支援する総合地震防災システムの構築」
「土砂災害警戒区域における面的な降雨量データ取得による住民への適切な防災情報発信の研究」に向けた多点設置可能な低コスト雨量計および観測システム開発の技術的検討」

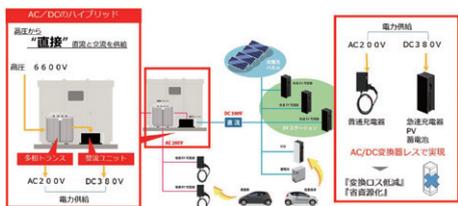
◆山本義幸土木工学科准教授

「深層学習による黒にんにくの製造パラメータの最適化」

共同研究で開発した高効率AC/DC変換装置が環境大臣賞を受賞

本学のエコ電力研究センター（センター長・雪田和人電気学科教授）と愛知県瀬戸市の河村電器産業株式会社（水野一隆社長）が共同で開発した高効率AC/DC（交流/直流）変換装置が、5月に大阪市で開催された第71回電設工業展（JEC AFAIR2023）の第62回製品コンクールで環境大臣賞を受賞しました。

両者の共同研究は「太陽光発電・直流技術を用いたEV（電気自動車）への給電技術を開発！〜ゼロカーボン社会におけるEVの普及を手助けします〜」と銘打ち、愛知県の「知の拠点あいち重点プロジェクトIII



期（2019〜2022年度）に採択されています。同変換装置は、基本機能を重点プロジェクトで完成させ、各機能の拡張については重点プロジェクト終了後も共同で開発してきました。

電設工業展の製品コンクールには、「ダブルハイブリッドEVステーション」として出展しました。ダブルハイブリッドEVステーションは、多相トランスを使用することで直流と交流の同時出力を実現しています。その結果、急速・普通充電器両方の運用が可能となり、急速充電時の直流―交流の変換ロスを削減できます。また、太陽光発電や蓄電池を連携すること

で、さらにエネルギー利用効率を向上させることができると、ダブルハイブリッドなシステムが構築できます。エコ電力研究センターでは、今後も八草キャンパス総合技術研究所前に導入した特殊巻線型変圧器を用いて、直流給電技術の社会実装のために研究を実施する予定です。

量子技術「室温超偏極」で創薬へ大きく前進 室温で信号を700倍増大して創薬NMR手法を実現

大阪大学量子情報・量子生命研究センターの根来誠准教授、同大学基礎工学研究科の宮西孝一郎助教、同大学蛋白質研究所の杉木俊彦特任助教（現在は北里大学薬学部准教授）、愛知工業大学工学部応用化学科の森田靖教授、村田剛志教授らの研究グループは、試料を室温に保ったままスピンを揃える量子技術「室温超偏極」を用いてNMR（核磁気共鳴）信号を700倍以上増大し、創薬に用いられるNMR手法のデモンストレーションに成功しました。これにより、量子技術を創薬へと用いる社会実装に向けて大きく前進しました。

本研究成果は、レーザー光とマイクロ波を照射することによって温度に関係なく核スピンの向きを揃える「光励起三重項状態の電子スピンをを用いた動的核偏極（DNP）法（略称…トリプレットDNP法）」によるものです。

NMR分光の感度は核スピンの向きが揃った割合を示す偏極率に比例します。偏極率は室温では通常10万分の1程度という

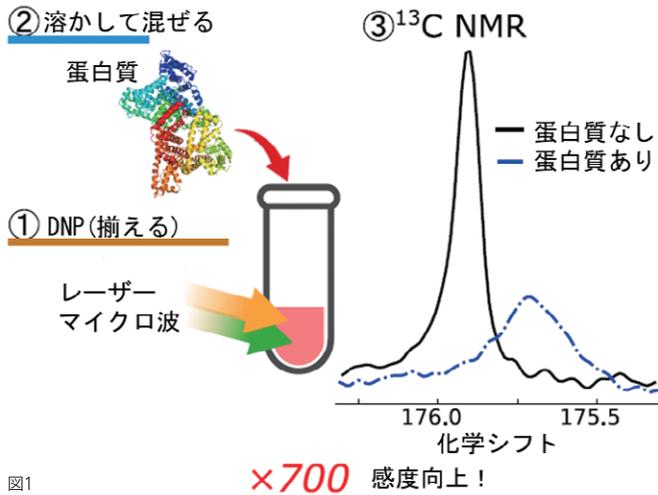


図1

このような蛋白質との結合や、阻害の様子をとらえることは創薬NMR分野で非常に良く用いられる基盤的な手法であり、本成果は「室温超偏極」を創薬へと用いる社会実装に向けて道を拓くものであると研究グループは考えています。

本成果は、米
国東部時間7
月4日午前8

非常に低い値です。NMR分
光は新材料探索や創薬において
必要不可欠なツールとして用い
られていますが、その感度の低
さが適用範囲を大きく制限し
ています。

研究グループは、サリチル酸
と呼ばれる分子固体中の核スピ
ン偏極率をトリプレットDNP
によって室温で高め、その後試
料を水溶液中で溶かしてからヒト

血清アルブミンと呼ばれる蛋白質
と混ぜNMR信号によりその
結合の様子を検出することに
成功しました（図1）。

この時の溶液状態でのサリチ
ル酸の炭素核スピンの偏極率は
0.7%であり、通常のNMR
分光の環境に比べて700倍
以上強い信号が観測されまし
た。また、サリチル酸よりも強
く結合するワルファリンと呼ば
れる医薬品有機分子を共存させ
ると、ワルファリンがサリチ
ル酸を阻害する様子を示す明確
なNMR信号の観測にも成功
しました。

マッチング企業展

キャリアセンターは6月9
日、八草キャンパス1号館2階
ラウンジで内定獲得促進策の一
環としてマッチング企業展を開
きました。午前の部と午後の部
に分かれて計26社が参加し、学
生側は就職活動中の4年生と
大学院博士前期課程2年生が
訪れました。午前・午後とも
35分間1チームの3チーム制を
通じ、各ブースで企業側の説明
を受けて互いのマッチングを図
りました。



就活生と企業が結びつきを深めたマッチング企業展

親子で「ものづくり体験」 まるごと体験ワールド

ものづくり体験などを通じて
子供たちに科学する心を養って
もらう「まるごと体験ワールド」
が8月9日、八草キャンパスで
開催されました。夏休み恒例の
人気行事に今年も定員を超え
る応募があり、抽選で選ばれた
小中学生と付き添い者合わせて
434人が参加しました。

学生企画の3講座を含む多
彩な14の講座が講義室などで繰
り広げられ、参加した親子らは
担当の教員や学生たちの指導を
受けました。参加者アンケート
で「楽しかった」「また参加した
い」との回答が90%以上寄せら
れました。



みらい工房で楽しんだ講座「ふしぎ屏風を作ろう」

AIT-Rescueが ロボカップジャパンオープンで優勝

5月5〜7日に滋賀県の滋賀ダイハツアリーナで開催されたロボカップジャパンオープン2023で、レスキューシミュレーションリーグに出場した本学のAIT-Rescueチームが優勝を勝ち取りました。

AIT-Rescueチームは、情報科学科の分散人工知能研究室（伊藤暢浩教授）に所属する鈴木宏哉さん（大学院経営情報科学研究科博士前期課程2年）、藤澤丈さん、上原温揮さん、前田綾也さん、松永一希さん（同1年）の院生たちと、伊藤教授、岩田員典愛知大学経営学部教授の合わせて7人です。

コロナ禍の後、初めて大部分のリーグが一堂に集まった競技会は、約300人が参加し、一般の人々にも公開されました。レスキューシミュレーションリーグは、コンピュータ内の仮想的な都市で発生する都市直下型地震に対して、多数の人工知能ロボットが協力して被害を最小限にとどめる、協調的な災害救助戦略を競う競技です。1日の中で多くの仮想地域（都市）で競技を行い、どの地域でも被害を抑えられたチームが勝利し

ます。

AIT-Rescueチームは、一昨年のRCAP2021アジア大会優勝、昨年のRoboCup2022世界大会2位の實力を發揮、5日、6日の予選リーグ、7日の決勝

リーグともに1位を獲得して優勝しました。

院生たちは「旅費の都合もあり、全員は現地参加できませんでしたが、互いに連絡を取り合い、全員で協力して開発を行うことができました。優勝を勝ち取ることができ、とてもうれいです」と話しています。チームは、7月にフランス・ポルドー



AIT-Rescueチームの院生。前列左から鈴木宏哉さん、藤澤丈さん、上原温揮さん、後列左から前田綾也さん、松永一希さん

で開催されるRoboCup2023世界大会に出場します。

また大会の中で、チームの鈴木宏哉さんが昨年の国際会議で発表した論文「Implementation of Pseudo-Communication Module for DCOF Algorithms on RRS and Improvement of Binary Max-Sum (RRSにおけるDCOPアルゴリズム用擬似通信モジュールの実装とBinary Max-Sumの改善)」に対してロボカップ研究賞が贈られました。



授賞式のAIT-Rescue（左から鈴木宏哉さん、岩田員典愛知大学教授、上原温揮さん、伊藤暢浩教授、岡田浩之ロボカップ日本委員会会長）

高大連携プログラムに 高校生176人

高校生が大学での勉強を体験し、進路選択の一助にする「愛知工業大学 高大連携プログラム（ワークショップ入門講



電気学科・移動ロボットの電子回路と制御プログラム制作

座」が、夏休み最初の週末に八草キャンパスと自由ヶ丘キャンパスで開かれました。本学と教育交流協定を結ぶ県内の高校や名電高校の生徒たち176人が受講しました。

八草キャンパスで16の講座（7月22、23両日）、自由ヶ丘キャンパスで2つの講座（7月22日）が開かれました。インターネットの仕組みを体験したり、成功する会社について考えたりと、参加した高校生たちは、現代社会と密接に結びついたテーマに意欲的に向き合いました。



マイコンロボットの制御実験

中学・高校・大学接続事業の一環として、高校科学技術科と情報科学科の2年生が参加する実験・実習体験「Meiden Labo in AIT」が、大学八草キャンパスで繰り広げられています。今年度は5月9日、6月6日、9月5日、10月3日、11月14日の5回の開講を予定し、高校生たちは工学部・情報科学部で希望するテーマに分かれ

Meiden Labo in AIT



センサを用いた日常道具のデジタルインターフェース化実習

て指導を受けています。内容は、マイコンロボットの制御実験、センサを用いた日常道具のデジタルインターフェース化実習など多彩で、生徒たちは科学に親しみながら、将来の進路選択の参考にもなっています。



2人が英会話やカナダの文化についてのレッスンをしています。滞在形式はホームステイで、カナダの生活文

コロナ禍で3年間休止していたカナダ語学研修を今年の夏に再開しました。行先はカナダ第3の都市バンクーバーのダウンタウンです。1〜3年生30人が参加し、S S L Cという語学学校で16日間(7月24日〜8月8日)のプログラムを実施しました。午前中は語学学校で2グループに分かれてクローズドレッスン(Close Lesson)本校の生徒のみでグループを構成)、午後は市内に出るの校外学習が盛り込まれたプログラムでした。カナダ人講師

高校カナダ語学研修



化により一層親しみ、カナダ人との相互理解も深まりました。初日こそ雨でしたが、翌日以降は晴天に恵まれ、湿度も低いカラッとしたバンクーバーの夏の晴天を満喫しながら、参加した生徒たちはそれぞれ充実した16日間を過ごせたようです。



Senior High School & Junior High School NEWS

中高一貫コース オーストラリア 語学研修

中高一貫コースの語学研修が4年ぶりに行われました。7月28日から8月4日の1週間、中学3年生から高校2年生合わせて17人が参加し、オーストラリアのプリズベンでホームステ

イをしました。

平日はプリズベン市内の学校 (Everton Park State High School) に通い、土日はホストファミリーと過ごしました。学校では生徒1人につき現地校の生徒が1人付き授業を共に受けました。また、ローンパイン動物園や市内散策などのアクティビティなども体験し、海外での生活を楽しみました。



文化祭・学校祭

高校の文化祭(9月15日)と中高一貫コースの学校祭(9月16日)が、4年ぶりにコロナ禍以前の形で開催され、在校生の保護者、卒業生を始め、多くの

方にもご来場いただきました。

高校は「黎明」、中高一貫コースは「Innovation」新たな幕開け」をテーマにし、多彩なクラス展示や屋外ステージ企画、ダンスやバンド演奏、模擬店など盛りだくさんの内容で、通常開催を楽しむ笑顔の輪があちこちに広がりました。





にぎやかに体育祭

中高の体育祭は、高校が9月27日、中学(中高一貫コース)が同28日、それぞれ日本ガイシホールで開かれました。コロナ禍以来、初の制限無しでの通常

開催となりました。

カラフルなブロックTシャツ姿の生徒たちが、綱引き、リレー、ボール運びなどの競技で得点をにぎやかに競いました。また、中高一貫コースのグループ発表では練習を重ねたダンスのパフォーマンスを披露し、仲間との団結を示しました。



各種奨学金を交付

専門学校は6月16日、各種奨学金の交付式を校長室で行いました。対象者は、学業奨学生(1年次)2人、学業奨学生(2年次)4人、指定校推薦入試奨学生4人の合わせて10人です。飯吉僚校長が一人ひとりに通知書を手渡し、「実りの多い学生生活を」と呼び掛けました。



奨学生の皆さん

9月卒業式

専門学校の令和5年9月卒業式が9月13日、同校で開かれました。卒業生は高度情報処理学科の杉原克哉さんと本校2540番目の卒業生となります。飯吉僚校長が卒業証書を手渡し、お祝いの言葉を述べました。



卒業証書を受ける杉原克哉さん

専門学校ニュース
Vocational College NEWS

クラブ活動報告

高校卓球部 インターハイ卓球・学校対抗7連覇！ ダブルスも優勝、シングルスは準優勝

高校卓球部が、今夏の第92回全国高等学校卓球選手権大会（インターハイ）で7大会連続21回目の優勝を飾りました。個人種目もダブルスで優勝、シングルスで準優勝しました。

大会は8月8～13日、札幌市の北方スアリーナ札幌46（札幌市中央体育館）で開催されました。学校対抗準決勝で出雲北陵（島根）に競り勝った本校は、決勝で明豊（大分）と対戦。1番の坂井雄飛（2年）が明豊エースを相手にフルゲームの逆転勝利を収めました。2番は1年生の面田知己が思い切りよく3-1で勝利、優勝に王手をかけました。

3番ダブルスは、前日に行われた個人

高校フェンシング部 インターハイ13年ぶり11回目の優勝

高校フェンシング部が、8月2～6日に北海道室蘭市で開催された令和5年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）男子学校対抗戦で13年ぶり11回目の優勝を果たし、同部が持つインターハイ最多優勝の記録を更新しました。

個人戦で、昨年女子サーブル準優勝だった金高生幸（2年）が決勝戦で敗れ準優勝、男子フルレール3位だった林川琉偉（2年）もベスト16に終わるなど、目標としていた優勝に届かず、いやな雰囲気を感じながら最終日の学校対抗戦に挑むこととなりました。

学校対抗戦は、総当たり戦9試合を行い、先に5勝をした方が勝利となります。メンバーは3年生でキャプテンの杉浦敬祐、2年生の長谷川力玖と林川、1年生の西村健也の4人で戦いました。1回戦シードで2回戦からのスタートになった対戦相手は、U17日本代表が所

属する開新高校（熊本県）。本校は長谷川が捻挫をするアクシデントがありました。5勝2敗で3回戦に進出しました。長谷川に代えて西村を出した3回戦の高松北（香川県）戦では、個人ベスト8の相手を西村が倒し5勝0敗と勢いに乗りました。準々決勝では全国選抜3位の清風（大阪府）に5勝0敗、準決勝も全国選抜3位の気仙沼（宮城県）に5勝1敗と、危なげなく決勝へ進出しました。

決勝の相手は、日本代表選手を2人擁する鹿児島南（鹿児島県）。3月に行われた全国選抜では準々決勝でギリギリまで追い詰めながら惜敗した相手である全国選抜チャンピオンとの対戦となりました。準決勝まで勢いに乗っていた西村が日本代表の2選手に敗れるなど、一進一退の展開は4勝4敗の最終戦にもつれ込みました。西村から、捻挫をした長谷川に交代をした最終戦、覚悟を見せた長谷川が

5点对3点で勝利し優勝を決めました。富田弘樹監督は「歴代の先輩方がつないできた意思を引き継ぎ、13年ぶりにインターハイの団体戦で優勝することができ、うれしく思います。覚悟を持って戦ってくれた選手たちを本当に誇らしく思います」と話しています。

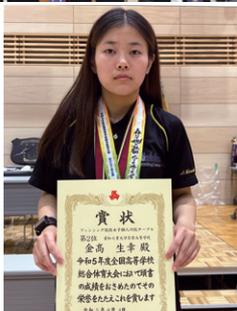


学校対抗7連覇を達成した高校卓球部（写真はニッタクニュース提供）

たな気持ちで大会に挑むことができた。7連覇がかかっているといっても、今の生徒たちがいる前からのことです。生徒たちには今の一瞬を大切にしていってほしいと話しました。準決勝では追い詰められる場面がありましたが、そこで冷静な戦いをしてくれました。決勝では未来につながるべく、2年生のチャレンジも行い、その中で出場する選手が最善を尽くして勝利をもぎ取ってくれました。いい選手たちと共に戦い、結果も残せました。最高の夏でした。遠方にも関わらず、理事長先生、校長先生も会場に足を運んでくださり、本当に力になりました。ありがとうございました。

13年ぶり11回目の優勝を果たしたフェンシング部

女子サーブル準優勝の金高生幸



中学●卓球部

中学は王座を奪還！全中で2年ぶり14回目の優勝



王座を奪還し2年ぶり14回目の優勝を飾った中学卓球部

第54回全国中学校卓球大会は8月22～25日、高知県立県民体育館で開催され、中学卓球部が昨年逃した王座を奪還して2年ぶり14回目となる優勝を飾りました。準決勝で昨年2位の中間東(福岡)を3-1で下した本校は、決勝でライバル校の野田学園(山口)と対戦しました。1番を落とす、2番の持田陽向(3年)が3-1で勝利、1対1で3番ダブルスを迎えました。月原弘暉(2年)／浅里巧真(1

年)ペアはフルゲームの熱戦を制して優勝に王手。大接戦となった4番で競り負けたものの、ラストは郡司景斗(2年)が落ち着いたプレーでストレート勝ちし、王座を取り戻しました。個人戦のシングルスでも、佐々木雄大(3年)が準優勝、持田と郡司がベスト8という結果になりました。

●真田浩二監督の話／メンタルトレーニングを受け、今の自分を受け入れた選手たち。一人、二人と顔つきを変え、頑張る選手が増えていきました。予選会のベンチコーチから教わった点の取り方や勝ち方は、力をくれました。懸命に練習の相手をし、指導してくれた先輩たちのおかげで、戦う技が増え、自信につながりました。いただいたお守りに「叶え、こと」を書き、「きっと上手くいく」と合言葉ももらいました。全ての物事が、優勝へとつながっていくシナリオのように思えました。決して自分たちの力だけでは成し遂げることは出来なかったと、感謝の気持ちをあらためて実感する夏になりました。

学園●卓球部 FISUワールドユニバーシティゲームズ 卓球競技で団体銅メダル、ダブルス銀メダル獲得



前回を上回るメダルを獲得した日本男女

国際大学スポーツ連盟(FISU)が主催する学生の国際総合競技大会「FISUワールドユニバーシティゲームズ2023中国成都」の卓球競技(7月29日～8月5日)で、学園と学園出身の選手を主体とする日本男子チームが、団体銅メダル、ダブルス銀メダルなどの成績を上げました。卓球競技男女全体では合わせて6個のメダル(銀3、銅3)獲得となり、前回大会を上回りました。

学園関係の出場選手は、横谷晟(大学3年)、谷垣佑真(大学2年)、田中佑汰(大学0B)と名電中高出身の演田一輝(現・早稲田大学)の4選手です。大学男子卓球部の森本耕平監督も日本チーム男子監督として帯同しました。男子団体準決勝で香港チームをストレートで下した日本チームは、準決勝で本大会優勝チームとなる中国と対戦。3-1で敗れ、3位となりました。



団体銅メダルを獲得した日本男子チーム

個人戦では、男子シングルスで田中佑汰と谷垣佑真がベスト8、横谷晟がベスト16、男子ダブルスで谷垣佑真・演田一輝ペアが銀メダル(決勝・谷垣・演田3-14中国ペア)、混合ダブルスで木村香純選手と組んだ横谷晟がベスト8の成績を収めました。

高校●吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクールに45回目の出場

高校吹奏楽部は、8月の東海吹奏楽コンクールで金賞に輝き、東海支部代表として全日本吹奏楽コンクール(10月22日・名古屋国際会議場センチュリーホール)に高校部門全国最多・45回目の出場を果たしました。10月の中部日本吹奏楽コンクールでも1位の文部科学大臣賞を受賞しました。

一方、同部恒例のサマーコンサートは7月16日に日進市民会館、同21日に名古屋国際会議場センチュリーホールで、それぞれ開かれました。今年度の全日本吹奏楽コンクール課題曲であるマーチ「ペガサスの夢」(水口透作曲)で開幕後、部員たちは顧問の伊藤宏樹・遠山翔大両教諭の指揮で交響詩「モンタニヤールの詩」(J・

V・デルロースト作曲)などを華やかに披露しました。

現在、部員は約2000人。部活動は23種の係に全員が組織され、部員の手による運営を自主的に展開しながら、年間約60回のコンサートや地域貢献活動に精力的に取り組んでいます。サマーコンサート後半では、1年生部員が出や大道具製作を手掛けた夏の名曲の数々や、ダンスで彩るABBAメドレーなどが続き、会場の吹奏楽ファンを大いに沸かせました。



聴衆を魅了したサマーコンサート

大学●卓球部

4年ぶりにホームマッチ開催

2023年度前期日本卓球リーグ滋賀大会(6月21〜25日・滋賀県彦根市プロシードアリーナHIKONE)の二環として6月3日、「クローバー歯科カスピッツ」チーム(前年度リーグ前期4位)を八草キャンパス小体育館卓球場に迎えて、同リーグ戦のホームマッチが行われました。コロナ禍を挟んで4年ぶりのホームマッチ開催とあって、会場には多くのファンが観戦に訪れ、試合後の交流会では卓球台を挟んで選手たちと和やかに交流しました。



ホームマッチ後の交流会に参加した卓球ファンと選手ら

大学●ゴルフ部

中島桐生、第52回中部学生ゴルフ選手権競技で2位

2023年度(第52回)中部学生ゴルフ選手権競技が8月9〜10日、岐阜県の明智ゴルフ倶楽部明智ゴルフ場(東コース)で行われ、本学ゴルフ部の中島桐生(3年)が単独2位(準優勝)の成績を収めました。

中島選手は、初日71(35、36)でラウンドし、9位タイの成績で決勝ラウンドに臨みました。決勝ラウンドは、朝から強い日差しが照りつけ、同時に強い風が吹き前日よりコンディションが悪く、各選手スコアメイクに苦しむ中、この日のベストスコア71(35、36)をマークし単独2位の成績を収めました。本格的にゴルフを始めて6年目であり、伸びしろは大きく今



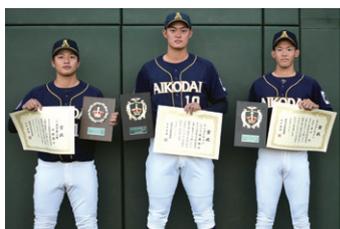
CGA編集室

大学●硬式野球部

愛知大学野球連盟2023年度新人戦で5年ぶり優勝

本学硬式野球部は6月24日、本学グラウンドで行われた愛知大学野球連盟2023年度新人戦の決勝で中京大学を3-0で下し、2018年以来5年ぶりとなる新人戦優勝を飾りました。

また、同部は春季リーグ戦で3年生の中村優斗投手が最多奪三振の活躍をしたほか、4年生の尾藤祐介(指名打者)と3年生の宮川怜(外野手)が、それぞれベストナインに選ばれました。



春季リーグ戦で表彰された中村優斗(左)、尾藤祐介(中)、宮川怜(右)の各選手



新人戦5年ぶりの優勝を飾った硬式野球部

愛知工業大学

豊田市消防長から感謝状



大学院博士前期課程1年
土射津佑起さん

2月夜、八草キャンパス正門付近の歩道で道路わき約5m下の用水路内に転落している男性を発見、通報・救護活動を実施しました。

愛知工業大学

情報処理学会東海支部の 学生論文奨励賞



大学院博士前期課程を今春修了
ユビキタス情報処理研究室
大鐘勇輝さん

「BLEビーコンを用いた車椅子の
自走・介助および活動量の
推定手法」で受賞

愛知工業大学

情報処理学会論文編集貢献賞

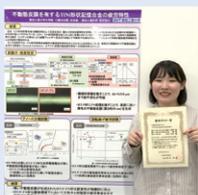


情報科学部
森本正志 教授

論文誌デジタルコンテンツ
編集業務への貢献によって受賞

愛知工業大学

日本ばね学会の春季ばね及び 復元力応用講演会で優秀ポスター賞



大学院博士前期課程2年
機能材料研究室
橋本妃環さん

「不動態皮膜を有するTiNi形状記憶合金の疲労特性」
で受賞

愛知工業大学

形状記憶合金協会の SMAシンポジウムで最優秀賞



大学院博士前期課程2年
機能材料研究室
森本楓生さん

「高拡張力TiNi形状記憶合金ステントの変形特性」
で受賞

愛知工業大学

電子情報通信学会東海支部 令和4年度卒業研究発表会で最優秀賞



情報科学科を今春卒業
メディア検索処理研究室
山本卓巳さん

「YOLOを用いた視覚障害者向け現金管理支援
手法の検討」で受賞

愛知工業大学

技育CAMPアドバンス2023 Vol.2で副大賞



大学院博士前期課程2年
ユビキタス情報処理研究室
須崎翔太さん、
熊澤綾人さん

「スマホアプリ「叫び」」で受賞

愛知工業大学

技育CAMPキャラバンで最優秀賞



システム工学研究会に所属する
情報科学科1年生5人チーム
多田隆人さん、
柴田青賢さん、
井上翔人さん、
宮腰颯太さん、
西尾匡生さん

Mac用デスクトップアプリ「かみあぶり」で受賞

愛知工業大学

日本接着学会の功績賞を受賞



尾之内千夫 名誉教授
(元応用化学科教授)
功績賞は接着・粘着の
基礎または応用化学の
発展のため顕著な功績・
功労をあげた者が対象
となり、尾之内名誉教授
の永年の功績に対して
贈られました。

愛知工業大学

DICOM02023で最優秀プレゼンテーション賞 とベストカンパニオン賞



大学院博士
前期課程2年
ユビキタス
情報処理研究室
須崎翔太さん

「気圧センサに基づく水に沈めたスマホの水深変化と
掴み動作の推定とその応用」で受賞

愛知工業大学

第188回コンピュータグラフィックスとビジュアル 情報学研究会で優秀研究発表賞と学生発表賞



大学院博士前期課程2年
メディア検索処理研究室
上野延典さん

「ハイブリッド深層学習
モデルを用いた果物画像
からの糖度推定アプリ
ケーションに関する検討」
で受賞

愛知工業大学

DICOM02023で野口賞と 優秀プレゼンテーション賞



「民族学博物館の展示
物に興味を惹きつける
ためのデジタルコンテ
ンツの制作」で受賞

CGメディア研究室
米田さやかさん、片山あず美さん、山本千鶴さん、
尾澤諒さん、相原昌喜さん(以上、情報科学科4年)と
篁知樹さん(大学院博士前期課程2年)のチーム

愛知工業大学

国際学会IWIN2023で Student Award



大学院博士
前期課程1年
ユビキタス
情報処理研究室
山口壘さん

スマートフォンを用いた自転車タイヤの空気圧低下推
定手法で受賞

愛知工業大学

第51回可視化情報シンポジウムで ベストプレゼンテーション賞



大学院博士前期課程2年
流体工学研究室
堀江広夢さん

「光安定性の高いピレン
誘導体AA-PSPの開発」
で受賞

愛知工業大学

電気学会電力・エネルギー部門大会 でYPC奨励賞



大学院博士前期課程2年
電力システム工学研究室
(七原研)
山田康暉さん

「一機無限大母線系統
でのインバータ電源の導
入限界に関する一考察」
で受賞

愛知工業大学



豊田市八草・名古屋市自由ヶ丘にキャンパスをもち、3学部7学科14専攻と大学院2研究科を有する工科系総合大学です。「自由・愛・正義」の建学精神の下、1959年に開学して以来、学生のチャレンジ精神を全面的にバックアップし、ものづくり産業の第一線で活躍できる人材を育成しています。

ホームページはこちら▶



愛知工業大学名電高等学校



愛知工業大学を軸に国立公立や難関私立大学を目指す普通科(特進・選抜コース、普通コース、スポーツコース)と、愛知工業大学各専攻と連携した「STEAM教育」を行う科学技術科・情報科学科があり、自分に合った学科・コースで学習します。最先端の学びにふれる授業に加え、ハイレベルな部活動も人間形成の一助になっています。

ホームページはこちら▶



愛知工業大学名電中学校



主要科目の時間をたっぷり取り、私立校ならではのバラエティ豊かな副教材を併用して、6年間をフルに使ったカリキュラムで学力を養成する「男女共学中高一貫校」です。学内にとどまらず、中高大の学園ネットワークを活かし、教科書の範囲を超えた授業で自然科学に対する興味関心を高めます。

ホームページはこちら▶



Information

愛知工業大学

学校推薦型選抜

詳細はホームページでご確認ください▶



女子学生推薦試験日
スポーツ推薦試験日
11月11日(土)
10:00~11:00 小論文
12:30より随時 面接(15分程度・口頭試問含む)

工学部推薦試験日
11月11日(土)
10:00より随時 面接(20分程度・口頭試問含む)

一般推薦試験日
11月12日(日)
10:00~11:00 小論文
12:30より随時 面接(15分程度・口頭試問含む)



名電高等学校

学校・入試説明会

要申込

最新の情報はホームページでご確認ください▶



11月3日(金・祝)・4日(土)
I部・II部の入替制(どの回も同じ内容です)
時間/(I部)9:00~(II部)11:00~
申込方法/ホームページ
体育館にて全体説明を約1時間実施。
●各科・コースの紹介
●入試について
※全体説明後、ご希望の方は校内見学・個別相談もできます。



名電中学校

模擬入試

要申込

最新の情報はホームページでご確認ください▶



11月11日(土)、12月9日(土)
時間/9:30~12:00(受付8:45~)
申込方法/ホームページ

児童対象
●模試入試
(11月11日国語・社会、12月9日算数・理科)

保護者対象
●学校紹介
●入試説明
●入試の傾向と対策
(11月12日算数・理科、12月10日国語・社会)



※時間等変更になる場合があります。

Schedule 2023年11月~2024年2月

*スケジュールは変更になる場合があります。詳細については、各設置校へお問い合わせください。

	愛知工業大学	名電高等学校	名電中学校
11月	1日 駅伝大会 11日 【入試】スポーツ推薦、女子学生推薦、工学部推薦 12日 【入試】一般推薦 13日 創立記念日 15日 防災訓練 29日 【入試】大学院工学研究科	3日 学校・入試説明会 4日 創立記念日 13日 創立記念日 15日 防災訓練 27日 期末考査(～12月1日)	8日 授業参観 9日 模擬入試・学校説明会 13日 創立記念日 15日 芸術鑑賞会、防災訓練 27日 期末考査(～30:中学)(～12/1:高校)
12月	16日 サイエンス大賞 26日 冬季休業(～1月10日)	13日 三者面談(～21日) 22日 終業式	9日 模擬入試・学校説明会 13日 三者面談(～22日) 22日 終業式
1月	11日 授業開始 13日 大学入学共通テスト 14日 大学入学共通テスト 27日 【入試】前期日程A方式、Aw方式、M方式 28日 【入試】前期日程A方式、Aw方式、M方式 29日	9日 始業式 12日 大学入学共通テスト壮行会 13日 大学入学共通テスト 14日 大学入学共通テスト 16日 【入試】推薦・帰国生特別・特色入試 17日 3年学年末考査(～22日) 23日 【入試】一般入試	9日 始業式 13日 大学入学共通テスト 14日 大学入学共通テスト 16日 中高接続試験(中学3年) 16日 高3年学年末考査(～19日) 20日 【入試】奨学生入試・一般入試 21日
2月	6日 期末試験(～9日) 20日 成績発表 24日 【入試】大学院経営情報科学研究科	12日 修学旅行(～16日) 28日 1・2年学年末考査(～3月6日)	6日 スキー学校(～8日:中学1年) 29日 予餞会